

子宮頸がん^{けい}予防ワクチン

接種費用の全額助成を開始！

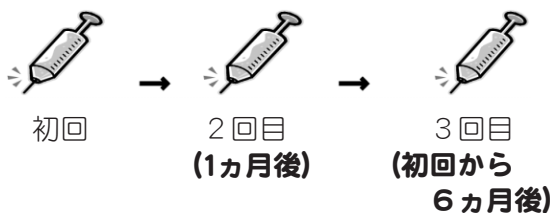
対象は中学生女子

町では、将来を担う子どもたちの健康・命を守るため、近隣市町に先駆けて、子宮頸がん予防ワクチン接種費用の全額助成を開始します。

子宮頸がん発生の主な原因はヒトパピローマウイルス（HPV）の感染で、10代（中学生）女子へのワクチン接種が、最も予防効果が高いとされています。

- 対象者** 中学1年生から3年生の女子
- 接種料金** 無料（全額町負担）
- 申請受付** 1月4日（火）から
※印鑑をご持参ください。
- 申請場所** 健康管理課
- 接種方法** 町内医療機関で個別接種 ※要予約
- 接種回数** 半年間に3回接種
※3回接種することで予防効果が得られます。
※腕の筋肉（上腕三角筋部）に注射します。

《接種スケジュール》



子宮頸がんとは？

子宮頸がんとは、子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんで、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が主な原因で引き起こされる病気です。子宮がんの約7割から8割が子宮頸がんです。日本では、年間15、000人の女性が子宮頸がんにかかり、そのうち約3、500人が亡くなっています。

HPVは、感染しても多くの場合、感染は一時的で、ウイルスは自然に排除されますが、感染した状態が長い間続くと子宮頸がんを発症することがあります。また、特別な人が感染するのではなく、多くの女性が一生の内に一度は感染するごくありふれたウイルスです。

予防ワクチンの効果は？

ワクチンを接種することにより、子宮頸がんの原因となるHPVの抗体をつく

り感染を防御して子宮頸がんを予防します。

子宮頸がんの発症は20代以降に多いとされていますが、HPVに感染してから発症まで数年から十数年かかります。

感染する可能性が低い10代前半にワクチンを接種することで、子宮頸がんをより効果的に予防します。

子宮頸がんワクチンの副作用について

一般的なワクチンと同様に、予防接種後に注射部位の腫れ・痛み・発熱などがありますが、通常は数日で治ります。

※注意事項

- ・子宮頸がん予防接種は「任意接種」です。
- ・体調や他の予防接種との関係で希望日に接種できない場合がありますので、医師の指示に従いましょう。

ワクチンを接種しても検診は必要です！

子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの治療薬ではありません。また全てのHPVによる病変を防げるわけではありません。早期発見するためには、ワクチン接種だけではなく子宮がん検診を受診することが重要です。

町では、20歳以上の女性を対象に、年1回子宮がん検診を実施しています。ワクチン接種を受けたあとも、20歳になったら定期的に子宮がん検診を受けましょう。



◆問い合わせ

健康管理課健康管理班
☎(82)3400